

# 2023年レスリング世界選手権



女子55kg級

**奥野春菜** 3等陸尉

令和5年9月16日(土)から9月24日(日)の間、ベオグラード・アリーナ(セルビア)にて、100ヶ国近くが参加した2023年レスリング世界選手権が開催された。自衛隊体育学校からは男子フリースタイルに5名、男子グレコローマンに2名、女子フリースタイルに1名が日本代表として出場し、激闘を繰り広げた。

奥野春菜3等陸尉は大会3日目の55kg初戦、AIN(ベラルーシ)の選手からバッティングを受け鼻骨を骨折したが、準決勝からはテーピングをとって決勝まで臨んだ。決勝では手足の長いウィンチェスター(米国)相手に片足タックル等で着実にポイントを重ね、第1ピリオドで4-0、第2ピリオドで4-2とポイントを守り切り金メダルを獲得した。奥野3尉は優勝者に許されるウィニングランはせず、試合後のインタビューで「自分が求めている世界チャンピオンの戦い方ではなかった」と悔しそうに振り返り、女子55kg級はオリンピック種目ではないものの「少しずつ地道に結果を出しながら、存在感を出せれば」と語った。



高谷大地2等陸尉はこれまで主に五輪3大会連続出場の兄を支えてきたが、今回は「自分が主人公になる」をモットーに練成を重ねてきた。

初戦は世界王者のチャミゾ(伊)をフォール寸前まで追い込み7-2で撃破、その後、メキシコ、ハンガリーの選手に勝利し、準々決勝では世界2連覇のデイク(米)相手に強みのタックルで互角の戦いを挑み逆転で追い詰め、4-6で惜敗したものの手応えを掴んだ。敗者復活戦ではカイバノフ(カザフスタン共和国)を5-3で制し、3位決定戦でもフォールで勝利し銅メダルを獲得。これにより、高谷2尉はパリオリンピックへの切符を大きく引き寄せ、内定に近づいた。

高谷2尉は「自分の技術が世界に通用することがわかった。しっかり準備して良い笑顔でパリの舞台に立ちたい」と語った。

今回初めて世界選手権に出場した小川航大2等陸曹は2回戦で昨年2位のイラン選手を破り殊勲の星を挙げたが、続く準々決勝でパンアメリカン王者に2-8で黒星。敗者復活戦でカザフスタン選手に勝って3位決定戦に進んだものの、アジア選手権優勝のキルギス選手に1-2で敗れ第5位、メダルに手が届かなかった。小川2曹は「レスリングの力を身につけていかないといけない。その気持ちを一番大事にして頑張りたいと思います」と語った。

レスリング種目のパリオリンピック選考は来春開催予定のアジア予選、及び世界予選で出場枠が決定する。引き続き、出場枠獲得の戦いが続く。



写真：日本レスリング協会ホームページより

種目	出場選手	階級	結果
FS61kg級	小川航大	2等陸曹	5位
FS65kg級	乙黒拓斗	3等陸尉	敗復活戦不戦敗
FS74kg級	高谷大地	2等陸尉	3位 銅メダル
FS86kg級	石黒隼士	2等陸曹	準々決勝敗退
FS125kg級	山本泰輝	2等陸曹	1回戦敗退
GR87kg級	角 雅人	3等陸曹	2回戦敗退
GR130kg級	奥村総太	2等陸曹	1回戦敗退
WW55kg級	奥野春菜	3等陸尉	優勝 金メダル